

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792400232		
法人名	医療法人 中屋覚志会		
事業所名	グループホーム くずは丘 I		
所在地	大阪府枚方市南楠葉2-25-3		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2792400232-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「自然のままに」を基本とし、入居者様のあるがままを受け止め、その人らしい暮らしに少しでも近づくことのできるよう、職員全員で意見交換し共通の認識を持ち支援していけるよう努めています。洗濯や掃除、食事の用意など出来る能力を維持できるよう、時間はかかってもできる限り入居者様に行き届くようになっています。タイムスケジュール通りに行かなくても、活動の機会が増え入居者様同士が助け合い、交流を深めながら笑顔の多い生活になるよう支援していくことを目指しています。入居者様の生活の中での気づき等些細なことでも家族様と密に連絡させていただいています。「利用者本位」のケアに重点を置き、出来る限り個々の生活リズムに合わせた支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの理念でもある「心に寄り添う介護」の実践に向け職員は認知症ケアについて学び、会議の中で個々の利用者への支援について気づきをもとに話し合いその人らしい暮らしとなるよう取り組んでいます。個々の介護計画が現状に即したものであるよう毎日実施状況を確認し毎月現状や気づきをまとめ、サービス担当者会議前に家族に意向を確認し、医師やケースワーカーが参加する介護計画に関わる会議を開催しています。また、毎日の散歩では利用者の状況に応じた距離を考え出かけたり、買い物や外食、季節ごとの花見やいちご狩りなど、様々に出かける機会を作り楽しんでもらっています。開設3年を迎え徐々に地域との関係も良好になり、地域のサロンや祭り等の行事に参加したり、ホームの夏祭りやハロウィン祭りに地域の子ども達との交流も広がってきています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自然のままに」を共通理念とし、入居者様がその人らしい生活ができるよう職員会議やユニット会議で施設長・管理者・職員が意見交換をし実践につなげている	職員の意見を出し合い「心に寄り添う介護」との理念をはじめ介護方針や運営方針を作成しています。事務所や各フロアに掲示し日々意識し、認知症等の研修で利用者に寄り添う介護について学び、会議の中で個々の利用者の支援について話し合うことで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	南楠葉自治会・地域ケア会議・楠葉校区福祉委員会主催のいきいきサロン等に参加・交流しています	日々の散歩や買い物に出かけた際に地域の方と挨拶を交わし、自治会に加入し回覧板等から地域の情報を得て地域のサロンや祭り等の行事に出かけています。またホームの夏祭りやハロウィン祭りに地域の子ども達と交流しています。陶芸や染物等のボランティアの他、敬老会ではマジックや踊り、体操などのボランティアの来訪もあり、利用者は楽しんでます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防・日常生活支援総合事業「元気づくり・地域づくりプロジェクト」、地域ケア会議への参加、その他地域住民からの質問等に細やかに対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度奇数月の第2金曜日、地域包括センターこもれび職員・民生委員・家族様代表・職員代表・施設長(管理者)が参加し意見交換している	運営推進会議は家族代表や地域包括支援センター職員、民生委員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームから入居状況や行事、事故などの報告を行い、意見交換を行っています。参加者から災害についてや防犯、安全面での質問が出され、ホームでの対策を伝えたり検討する等、有意義な会議となっています。会議の内容は家族会で伝えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	枚方市グループホーム連絡協議会に参加しています。救急救命講習会に職員1名が参加しました。	地域ケア会議や日常生活支援総合事業、グループホーム連絡会等に参加した際に意見交換をしたり、協力関係を築くように取り組んでいます。良好な関係を築き、日常的にわからない事を聞いたり、研修案内が来た時には参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修において身体拘束禁止の対象となる具体的な行為や身体拘束がもたらす多くの弊害等の資料を配布し、話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を毎年行い、会議や日々身体拘束に繋がるような事例について伝え、全職員が理解できるよう取り組んでいます。日中は玄関の鍵は掛けずフロアの鍵は解除できるようにしており、利用者の行動を止めるような言葉掛けなどにも配慮し、閉塞感を感じないように支援しています。安全のため夜間のみ4点柵をしています。安全のため夜間のみ4点柵をしています。方がいますが、毎月除去に向けた話し合いをしています。	

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設外研修「高齢者の虐待の現状と課題、取り組みについて」～日常業務の振り返りと明日からの実践～の内容を、職員会議の場で発表し、職員相互間の学びにつなげている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用されている方が1名います。日常生活自立支援事業については来年度の課題とする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様には契約内容を十分に熟読して頂きながら説明し、疑問点についての有無を必ず確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族様宛の連絡文章に季刊誌、ご入居者様の近況、往診内容等を同封し、面会時に必ず家族様との会話の機会を作り疑問や要望などを伺い真摯に対応しています	家族の面会時にはコミュニケーションを図り、また運営推進会議や年に1度開催する家族会で意見や要望を聞くように努めています。個別のケアについての意見が多く、洗濯や食事について検討したり薬情報を送付し伝えるなど其々に対応し、家族会で報告するようにしています。家族会に多くの参加が得られるよう笑いヨガやおやつ作りを行うなどの工夫をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議・ユニット会議において職員からの意見・質問・提案等話し合う場を設け、チームで取り組めるよう反映している	毎日行う朝礼や夕礼、毎月行うユニット会議等で職員は業務改善などの意見や提案を出し合ったり、行事の担当は交代制で企画し実施する等、職員の意見を運営に反映するように取り組んでいます。管理者は職員の気付きを大切に考え、日々コミュニケーションをとり、必要に応じて個人面談を行いながら働きやすい環境作りにも配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に対しては給与水準を上げ、残業0に取り組んでいます。職員同士の円滑なチームワークが取れるようお互いを敬い常に向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員が施設内研修の講師を担当し、課題設定も含め、認知症ケアの向上に努めている。介護経験3年以上の職員には実務者研修の受講も進めています		

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	枚方市グループホーム連絡協議会の加入、地域ケア会議、地域包括ケアシステムの元気づくり地域づくり会議メンバーとしての活動もしています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	社会面談時からその方の困りごとなど傾聴し安心して頂けるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時から、本人や家族が安心を確保できるよう意見や疑問に対して納得して頂けるまで説明し、ホームの理念や取り組み等を伝え、細かな質問等も遠慮なく伝えて頂けるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「必要としている支援」を意向などを含め、情報の中で見極めるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を重んじ、その方の望む暮らしはどのようなものであるのか職員全体で意見を交わし、一方的な支援にならないように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を定めず、家族との時間を大切にさせて頂けるよう、外泊や外出の機会を多く持って頂いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様も、知人の来訪時も、自室やリビングでゆっくり過ごしていただけるようにしています。お友達と一緒に買い物や食事に出かけられ馴染みの関係が途切れないように支援に努めています	友人や知人の来訪時には居室で過ごすことが多く、椅子などを準備したりお茶を出しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。友人と食事や買い物に出かけたり、家族と自宅や墓参りに行く方もおり、スムーズに外出できるように支援しています。葬儀への参列には職員も同行したこともあります。	

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、レクリエーション等を通して関わりを持てるように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたご入居者様のご家族様も時々ホームを訪れていただいています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が各入居者様の意向等に対して、どのように対応することができるかなど話し合う機会を持ち利用者本位のケアができるよう努めている	入居前に自宅や入居している施設を訪問し、生活歴や好み、どのような暮らしをしたいかを聞き、意向の把握に努めています。入居後は日々の関わりの中でコミュニケーションを図り意向を聞いたり、個々の食事の好みや楽しく過ごせている様子などを観て思いを汲み取り、思いの把握が困難な方もサービス担当者会議等で職員間で本人本位に話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方については出来る限り家族様から情報収集する様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し生活パターンシートや24Hシート等で把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議、ユニット会議で入居者様のご様子等を話し合う機会を持っている。必要時に担当者会議を開催しケアについて職員で話し合っている	本人や家族の意向、アセスメントを基にまとめシートを用いて課題分析を行い、サービス担当者会議を開催し介護計画を作成しています。毎日実施状況を確認し、毎月現状や気付きをまとめ、3か月毎にサービス担当者会議を開き現状に即した介護計画に繋げています。見直しに当たってはサービス担当者会議前に家族に意向を確認し、医師やケースワーカーが参加する介護計画に関わる会議の開催もあり、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を日中、夜勤に分け支援経過記録に記入し、ケアプラン内容の確認欄にも記録している		

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の朝夕の申し送り等にある変化等に対してどのようなケアや主治医への報告等が必要かを話し合っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームが地域の自治会に加入し、また民生委員より地域の高齢者の集まりなどの情報を提供してくれている。参加可能な集まりには参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	津田病院から月2回の往診、年1回の検診、24時間医療連携体制が整えられています。他医院への受診に関しては家族や本人の希望に沿って受診可能なこともお伝えしています	入居時に際しては希望のかかりつけ医の選択も可能であることを伝え、以前からの専門医のかかりつけ医を継続している利用者は基本的に家族が付き添い受診し、必要に応じて職員が同行することもあります。全利用者が協力医の往診を受け24時間連絡がとれ、緊急時にも指示を仰ぎ対応できる体制を整えています。訪問歯科による歯科検診を受け、希望や必要に応じて治療や口腔ケアを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	津田病院の看護師と連携し、個々の利用者が必要な看護が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院になった時は速やかに家族に連絡し、また入院前の情報等は文書で病院へ伝達している。入院中は定期的な面会を行い、治療の経過も主治医と連携し情報収集に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアについて説明し、ホームでの医療処置ができないこと、重度化した場合のケアについても津田病院の療養病棟への受け入れが可能なことなど重要事項説明の際に家族様にお伝えしています	利用者が重度化し必要に応じてホームの指針にそって、支援できることやできない事について説明しています。重度化した場合は医師の判断のもと家族に直接病状や状況を説明し、本人の意思や苦痛が少ないことを中心に考えて支援しています。家族と話し合いを重ね入院を選択する場合も多く看取りの支援の経験はありませんが、個々の状況や希望に添って支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急返事の対応について119番通報については電話機の近くの壁面に貼り、あわてず対応できるようにしている。細かな定期的訓練が現在不十分である為今後の課題である		

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度内に避難訓練を2回実施しています	年に2回、内1回は消防署の立ち会いのもと昼間を想定し、通報や初期消火避難誘導の訓練を実施しています。消防職員に避難時のベッドからの移動方法や担架の作り方も学び、救助袋を用いて下階へ降りる体験をしています。また、職員が地域の防災訓練に参加しています。	今後、職員の少なくなる夜間を想定した訓練を実施することを期待します。近隣の方へホームの消防訓練の案内を行うなど協力体制作りに向けて働きかけてはいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重、年長者を敬う対応は介護者としての基本であり、親しみの中にも敬う言動であるよう指導している	接遇マナーやプライバシー保護等の研修を受け、職員は個々を尊重した対応を心がけています。職員間でも年長者を敬う姿勢を持ち、利用者に対しては個々の心地良く感じる言葉遣いをするよう配慮しています。希望があれば入浴時等は同性介助を行い、排泄介助時の声の大きさやドアの開閉等には注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いが表出できる環境を整え、否定せず自己決定できるよう働きかけている。毎日帰宅願望のある方に対しては他の事に意識が行くよう働きかけたり、職員がどのように対応することでホームでの生活が少しでも心地よく感じる事ができるか話し合う機会を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を優先し出来る限り希望に添うよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを伝える事が可能な入居者様は毎日の服装は自由に着衣して頂いている。伝える事ができない方は家族様の意向をお聞きし食べこぼしやほつれ等がある場合は更衣し、髪型等乱れのないよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど出来る方には行って頂くようにしている。また、月に一度は外食会を開催し食事を楽しんでいます。週に1度食材のお買いものレクとして行っています	献立は法人の栄養士の立てたものを利用者の好みを加味して考え、食材は発注したりレクリエーションとして利用者と一緒に買い物に行っています。盛り付けや皿洗いなどのできることに携わってもらったり、たこ焼きやホットケーキなどのおやつを利用者と一緒に作っています。毎月外食に行ったり行事ごとの手巻き寿司や流しそうめん等の特別メニューを楽しんでもらい、その際には職員も一緒に食べることもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	津田病院の管理栄養士が作った献立を基に日々の食事の提供を行っている。個々の咀嚼・嚥下状態にあわせキザミ食や一口大、トロミをつけて提供している		

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科より口腔ケアの利用をされている入居者が多い		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式の生活パターンシートを活用し排泄の記録から個々の排泄パターンを探り、適時トイレ誘導を行い失禁が減るよう支援しています。失禁が少ない場合は布パンツを着用して頂くよう職員で検討している	利用者全員の排泄記録をとりパターンを把握し、個々のタイミングでトイレで排泄できるように支援しています。重度化する中でもできるだけトイレに行けるように支援し、日々の朝礼や夕礼、毎月の会議で支援の方法や排泄用品の種類などを検討しています。布の下着で過ごせる方もいたり、退院後は以前の状況に戻れるように支援する等、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のパターン(その方の排便の周期)を探り、水分摂取量を一日1000ml以上摂り、散歩を日課とし運動の機会を作る等支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴の曜日を決めさせていただいてはいるが、その時々体調や気分にあわせて入浴して頂よう支援している	少なくとも週に2回は入浴できるようにし、一人ずつ湯を替えゆっくりと入ってもらっています。日中に希望の時間を聞き、入浴回数を増やすこともあり希望にそって支援しています。拒否される方にはタイミングや日を変えるなど、無理のない入浴に繋げています。重度の方も安全に浴槽に入れるよう機械浴も設置しています。ゆず湯などの季節湯や好みのシャンプーや入浴剤を使用している方もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の入眠時間にならないよう配慮しながら、本人の体調や年齢に合わせた休息がとれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はケアプランの裏面にいつでも確認できるようにファイルしている。薬が変更になった時は職員に申し送り、状態の変化観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や歌、家事、外出などその方の楽しみごと、気分転換等はどのような事柄なのか職員全体が把握し支援している		

グループホーム くずは丘 I

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩以外にも、家族様や友人等に協力頂きながら外出・外泊の機会を作っている。定期的に外食行事、買い物にも行っています。地域で開催されているいきいきサロンにも参加しています。	利用者の状況に応じた距離を考え毎日散歩に出かけたり、週に一度はレクリエーションで買い物に行っています。地域の行事や外食、季節ごとの初詣や花見、いちご狩りなど、様々に出かける機会を作っています。日々テラスに出ておやつを食べたり外気浴を行い、日常的に戸外に出るよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し少額を所持されておられる方が数名おられます。買物で好きな菓子・物を買われたり、外出先で飲食に使われたりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合等事務所から電話して頂いています。手紙のやりとりは自由に行っていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁面装飾や玄関飾り、植物、行事等の写真を掲載し、居心地の良い空間になるよう努めています	明るい共用空間はカーテン等で採光を調整し、植物や生花、利用者で作った壁絵等で季節を感じられるようにしています。加湿機付き空気清浄機を設置し温湿度管理に配慮し、毎日換気や掃除を行い清潔で心地よい環境作りに努めています。ソファや壁に沿って椅子を置き一人や少人数で過ごせる場所を作り、行事や日常の写真を多く飾り思い出を見ることができるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部にソファ等を置き独りになれる場所や気の合う方と過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはタンスや衣服など新たに揃えず、使い慣れた物や本人の好みの物を優先して準備して頂くようお話している。状態の変化に伴い必要な物品については家族様と十分に話し合う機会を持っている	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように伝え、筆筒やテレビ、机、靴箱等持ち込まれたものを家族と相談し配置しています。家族や本人の写真やぬいぐるみを飾ったり、家族と衣類の入れ替えを行う等、その人らしい居室となっています。以前の生活を継続し布団を敷き休んでいた方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの所在確認を行い、危険な場面以外は制止することはせず、自由に過ごしていただいている		